

【小施策評価(令和元年度実績評価)】

小施策の総合計画における位置付け

基本目標	3	人を育み未来につなぐまちづくり	小施策 主管課等	環境企画課
施策	20	地球環境の保全と自然との共生	評価 責任者	池田 陽一 内線 8410
小施策	20-4	地球温暖化対策の推進	評価 シート 作成者	菅原 真理 内線 8411

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
市域における温室効果ガス排出量は、東日本大震災後の平成24年度をピークに減少傾向にあるが、地球温暖化対策を進め、更なる削減が必要である。地球温暖化対策実行計画の目標年度である42年度における温室効果ガス排出量の31%削減(平成25年度比)に向け、地域経済の好循環にもつながる再生可能エネルギーの普及拡大やエネルギーの地産地消を促進するとともに、市民の省エネ行動の啓発などを効果的に進めていく必要がある。	温室効果ガスの排出削減のため、太陽光、風力、木質バイオマスなど、再生可能エネルギーの普及促進や、省エネ機器の導入などによるエネルギーの効率的な利用を促進する。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか/対象+成功状態)
市民・事業者	温室効果ガス排出量を抑制する。

小施策の成果指標の達成状況・評価(令和元年度実績)

実績値の推移				実績の評価	
指標① 盛岡市内からの温室効果ガスの総排出量	単 位	目指す方向	成果点	問題点	成果の要因分析
当初値 (H25) 2,492	千t-co2	↘	・「盛岡市住宅用太陽光発電システム等設置費補助金」により、108件の太陽光発電システム等が設置された。	・補助事業の財源である「地球温暖化対策実行計画推進基金」の残高が減少しており、事業の継続が難しくなっている。	・太陽光発電システムだけではなく、蓄電池システムやホームエネルギーマネジメントシステムも補助対象としている。
R1目標値 1,984					
R6目標値 1,685					

今後の方向性(令和2年度以降)

評価を踏まえた取組の方向性	★…R2年度着手済または着手予定 ☆…R3年度以降の着手を検討
★ 改修を予定している施設への再生可能エネルギー導入に向けて、所管課と協議を進める。	
★ 基金の残高が減少しているため、太陽光発電システム等補助金などの事業内容を精査し、地球温暖化対策に効果的に補助できるよう配分額を検討する。	
★ 地球温暖化対策実行計画推進基金の財源を確保するため、寄附やふるさと納税の増額につながるような事業内容を検討する。	